

令和 8 年度 第 1 回（5 月）大磯町議会 議会報告会
町民からの「町政に対する意見・要望・提言」

【有害鳥獣対策】

- シカが出没した際、環境課へ連絡したところ 30 分以上かかった。委託する以上、初動対応をきちんと担保した契約内容にしてほしい。
- 令和 8 年度から捕獲したイノシシを資源化する方式に変更されたが、町からの積極的な P R がない。

【公園】

- 馬場公園で国府祭の前に雨庭が作られたが、理由がわからない。花が抜かれ、石を子どもたちが投げたりして危険。事前の説明が足りない。
- 馬場公園は神聖な場所なので、遊び方も注意が必要では。
- 放置されているごみの後始末に苦労した。注意喚起してほしい。
- 公園の樹木が枯れたり大きくなりすぎたりしている。
- 池田公園に防犯カメラを設置して欲しいと 5 年程前から要望している。設置場所の優先順位はどのように決められるのか。

【防犯・防災・安心安全】

- 今年度の防犯カメラ設置を評価する。防犯・不法投棄対策の両面で、今後もカメラを増やしていただきたい。
- 増設される防犯カメラを誰がチェックするのか。
- 自転車利用のルール強化に伴い整備が進む自転車通行帯について、大磯町の国道は道路幅員が狭く危険箇所が多い。
- 備蓄倉庫の場所選定はどのように決まるのか。
- 災害時の対応について、理論だけでなく具体的・実務的であるべき。
もっと経験を生かすように親・子どもたちも巻き込んでほしい。
- 防災倉庫にある防災備蓄品の管理について、町なのか、地域なのかをより明確にしていきたい。
- 災害時のごみ問題など、各課で担当すべき課題については担当課内であまり議論がされていないようなので、自主防災組織や町民が関わって決めていかなくてはならないと考えている。
- ペットを連れて避難される方々も避難時のルールを理解することが重要である。
- 災害弱者、例えば小さなお子さんや障がいのある方々の避難について、スムーズな避難を支援していただきたい。

【免許返納・移動支援について】

- 免許返納のバスの補助は平等ではない。バス路線の近くの人しか恩恵が無い。
- 「かなちゃんパス」の補助があっても、バス路線がないエリアは全く意味がない。

- 移動支援、敬老パスを考えてほしい。
- 運転免許を以前に返納した高齢者に対する支援制度についてサポートはあるのか。高齢者福祉や移動支援の充実を求める。

【商品券について】

- 商品券について、大磯町は 6,000 円、二宮町は 8,000 円。なぜ違うのか。
- 商品券はどんな使い方をしたか等、利用後にアンケートが必要。
- 物価高対策商品券未使用残高はなぜ約 8,000 万円残ったのか疑問である。

【学校・教育】

- 学校給食問題について、早期の解決が必要である。
- 近年、発達障害を有する児童生徒の増加が顕著であるとともに、発達障害と診断されずとも、グレーゾーンにある児童生徒の増加にあるといわれている。これらの児童生徒の将来を見据え、現在の学校教育現場において、より丁寧かつ適切な対応が不可欠と考える。
- 教員は多忙のなか、支援を必要とする児童生徒への対応に追われている。教職員が余裕を持ち、効果的な教育活動を行える教育環境の整備が望まれる。
- 新年度予算に計上された不登校児童生徒家庭への給食費相当額支援について、利用しやすい制度設計と申請しやすい仕組みづくりを求める。

【公共施設】

- 新庁舎は町民のために活用されるのか。現在と比べどの位大きくなるのか。役場に来なくて済むような庁舎になるのか。
- 消防庁舎も建て替えと聞くが、場所は決まったのか。

【住環境】

- 人口増加だけを目指すのではなく、自然環境や落ち着いた住環境を大切にしながら、住民が望む暮らしを維持していくことが重要。
- 空き家問題へのより積極的な対応を求める。
- 海辺の高架下の落書き問題について、地域景観や治安への影響を懸念する。迷惑行為への罰則など厳しい対応を望む。

【その他】

- 町内会長業務の 6 ～ 7 割が神社行事で占められており、宗教行事が自治会活動に組み込まれていることが疑問である。
- ごみステーションの掃除や備品購入は利用者負担。町が購入費全額補助すると、備品が大切に扱われなくなる可能性があるため、補助率引き上げにより、財政的負担を軽減しつつ、利用者の所有意識を高めることができるのでは。
- 新たに整備予定の学童保育施設について、車椅子利用児童も利用できるよう、スロープ設置などバリアフリーに配慮した設計を求める。

- 町長の町政報告会と議会報告会、両方を聞いて言っていることの違いがわかってよかった。
- シルバー人材センターは公平な運営ではない。数名に問題点を話したが、片方の話だけ聞くのは問題である。町の幹部は町民の提案に真面目に対応すべき。
- 町内の出生数が 100 人を下回る状況を踏まえ、思い切った人口減少対策が必要。
- 返礼品の充実に向けて、大磯ならではの地域資源や特産品をさらに活用できるのではないか。
- 町内の介護施設不足により、近隣自治体の施設を利用するケースがある。一方で、住み慣れた地域で暮らし続けたいという希望も多い。施設整備と在宅介護支援の両面から取り組む必要性がある。